

< 3月号 >



# 朝三中だより

朝霞市立朝霞第三中学校  
平成30年3月1日発行

〒351-0023

朝霞市溝沼 1043-1

TEL 048 (464) 7575

FAX 048 (460) 2280

<目指す学校像> 一人一人が輝き 笑顔あふれる学校



## 「意識の高さが、行動を変える」

校長 九鬼 武

平昌での冬季オリンピックが終わりました。日本選手団はメダル13個という冬季オリンピックとしては過去最多のメダルを獲得し、連日私たちに感動と勇気を与えてくれました。

スピードスケートで金、銀、銅の3つのメダルを手にした高木美帆選手は、天才中学生と言われて出場した8年前のバンクーバーオリンピックでは1000mで最下位の35位となり、その4年後のソチオリンピックには日本代表から落選してしまいます。その時のことを振り返って「オリンピックを甘く見ていた」と言っています。しかしその後、高木選手の意識ははっきりと変わったそうです。目標とするオリンピックに向けての**意識の高まりが行動となって表れ**、オランダ人コーチのもと、ひたむきな練習と計画的な筋力トレーニングを続けて、今回のメダル獲得につながりました。

天性の才能があつて、自分では一生懸命やっているつもりでも、意識を高く持たないと、練習や行動に甘さが出てしまうのかもしれない。しかし、それが分かるのは、自分で意識を変え、今までの自分の殻を破るような練習をして目標を達成した時なのかもしれません。高木選手もオリンピックでメダルを取ることができた今、**目標に向けて意識を高く持つことの大切さを実感しているのだ**と思います。

さて、学校においても、2年生が2月7日から2泊3日の日程でシャトー塩沢スキー場でのスキー林間を実施し、オリンピック選手と同じように一生懸命な気持ちでスキーに取り組んでいました。幸い3日間とも晴天に恵まれ、生徒たちは絶好なコンディションの下でスキー講習を受けることができ、初心者の講習班でも2日目からはリフトを乗り継いで、山の上の方から滑ってくる生徒たちも見られました。途中で転んでしまったり、スキー板が外れてしまった生徒に、同じ班の生徒が声を掛けている姿や、手を貸してあげる姿なども見られ、雪の中でも温かい気持ちを感じることが出来ました。

特に感心したのは、委員長はじめ実行委員の生徒たちが事前からしっかりと準備を進め、今回のスキー林間を、**どのようなスキー林間にするのかという意識をしっかりと持っていた**ことです。

スキー林間を成功させるために、日頃の学校生活の見直しを自分たちで始めていましたが、3学期になってからの学校での様子は学年全体でとても落ち着いていました。実際、スキー林間の3日間を通して、集合時の話の聞き方、あいさつを始め、時間を指示されなくても自分たちで行動できる姿や、宿舎内で過ごしている姿などからは、知的な雰囲気すら感じられました。

実行委員たちのスキー林間に対する**意識の高さが自らの行動の質を高め、他の生徒たちの意識をも変化させた**。その結果が、今回のスキー林間の成功につながったように感じます。

3年生は残り半月で卒業です。1, 2年生もあと一月でそれぞれ進級します。次のステージに向け、自分は何を目標として頑張りたいのか、各自**意識を高くして臨んで欲しい**と思います。